第六講　抑揚形／願望形／その他

一　抑揚形

①　A且(スラ)(かツ)B。況(いはンヤ)C乎(ヲや)。＝Aスラかツ B。いはンヤCヲや。／（AでさえB。ましてCはなおさらだ。）

＊且＝猶(なホ)・尚(なホ)

（例）匹夫猶不レ欲二食言一、況至尊乎。〔匹夫猶ほ食言せんと欲せず、況んや至尊においてをや。〕
（身分の低い者でさえいつわりを述べようとはしない、
ましてや身分の高いものならなおさらである。）

②　況(いはンヤ)～乎(ヲや)。＝いはンヤ～ヲや／（まして～はなおさらだ）

③　而況於(しかルヲいはンヤ)(おイテヲ)～乎(ニや)。＝しかルヲいはンヤ～ニおイテヲや／（まして～においてはなおさらだ）

問一　「不(ルスラ)レ適(サ)二於用(ニ)一、人猶貴(ホ)(ブ)レ之(ヲ)。況其適二於用一者乎(レ)。」の傍線部をすべて平仮名で書き下し文にせよ。

＊「適」＝サ変動詞で考えてください。冒頭部分は、出典大学の通り「適さざる」という送り仮名にしてありますがご了承ください。

問二　「児衣在レ側、尚齧、況鞍懸レ柱乎。」の解釈として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、いっそ鞍を柱に懸けておいたらどうだろうか。
② 太祖の衣が子供の傍らにあってさえかじられるのだから、いっそ鞍を柱に懸けておいたらどうだろうか。
③ 身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、鞍を柱に懸けておくべきではなかった。
④ 太祖の衣が子供の傍らにあってさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ。
⑤ 身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ。

問三　「況(いはンヤ)能(よク)舎(すテテ)レ母(ヲ)而与(ために)二公軍(ノ)一事(ヘンや)耶。」を現代語訳せよ。

注　公軍…公の軍隊。
事…「事(つか)ふ」。仕える。

二 願望形

① **願**＝ねがハクハ～ ｛～ン／命令｝

② **請**＝こフ～ ｛～ン／命令｝

③ **庶**＝こひねがハクハ～ ｛～ン／命令｝

＊庶＝幾／庶幾

★ ①～③ ｛～ン…どうか～させて下さい／命令…どうか～して下さい｝

（例）願ハクハ聞カン二其ノ説ヲ一。〔願はくは其の説を聞かん。〕（どうかその説明を　　　　。）

願ハクハ察セヨレ之ヲ。〔願はくは之を察せよ。〕（どうかこれを　　　　。）

問四 「臣請フ、道ハン二三言ヲ一而已。」を現代語訳せよ。

三 その他

① 以為

(1) **以為**（おもヘラク）～（ト） ＝おもヘラク～ト／（～と思う）

(2) **以**（もつテ） **為**（なス） A（ト） ＝もつテAトなス／（Aと思う）

(3) **以**（もつテ） A（ヲ） **為**（なス） B（ト） ＝AヲもつテBトなス／（AをB ｛にする／と思う／と考える｝）

＊以～＝～ヲもつテ　**【理由や手段を示す】**

(1) 以（テス）二～（ヲ）一。 ＝～ヲもつテス／（～でする）

(2) 以（テ）二～（ヲ）一也。 ＝～ヲもつテなり／（～からである）

② 「すなはチ」の訳し方　＊(1)～(6)の読みは全て「すなはチ」

(1) **則**＝(もし～たら)

＊～バ(ハ)―則チ―…「則」＝訳さない

(例) 則チ践ミ二鋒（ほう）刃（じん）ヲ一、入レバ二湯火ニ一、…　〔則ち鋒刃を践み、湯火に入れば、…〕
(もし鋭い刃を踏み、熱湯や火中に入ったならば、…)

(2) **即**＝(すぐに)

(例) 樹即チ応ヘテレ声ニ、…　〔樹即ち声に応へて、…〕　(木はすぐに声に反応して、…)

(3) **便**＝(すぐに・たやすく・簡単に)

(例) 便チ合セテ二財産ヲ一、…　〔便ち財産を合せて、…〕　(すぐに財産を一緒にして、…)

(4) **乃**＝(そこで・やっと・なんと)

(例) 乃チ告グレ之ニ。　〔乃ち之に告ぐ。〕　(やっとこの人に告げた。)

注　之…ここでは「この人」の意味。

(5)　**輒**＝（そのたびごとに・いつも）

（例）至リテハ二於百姓ノ租税一ニ、動モスレバ輒チ蠲免ス。〔百姓の租税に至りては、動もすれば輒ち蠲免す。〕

注　蠲免…租税を免除する。

（人民の租税に至っては、とかくいつも免除する。）

(6)　**而**＝（そこで）

問五　「病児服シテレ薬ヲ、云ハバレ無シトレ効、則不如貧医。」の傍線部を現代仮名遣いで書き下しなさい。

（傍線部：則不如貧医）

③　**欲**

(1)　**欲**N＝N**ヲ**ほっス

(2)　**欲**V＝V**ント**ほっス

／（～したいと思う・～しようとする）

（例）欲渡。〔　　　　　　〕（渡ろうとする。）

問六　「必欲使之在尊貴之所」について、（ａ）返り点の付け方と書き下し文、（ｂ）その解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

（ａ）
①　必欲レ使レ之在二尊貴之一所　　必ず之を使はんと欲するは尊貴の在る所なり
②　必欲レ使三之在二尊貴之所一　　必ず之をして尊貴の所に在らしめんと欲す
③　必欲三使之在二尊貴之所一　　必ず使ひの尊貴の所に在らんことを欲す
④　必欲三使レ之在二尊貴一之所　　必ず之を使ひて尊貴に在らんと欲するの所なり
⑤　必欲使三之在二尊貴一之所　　必ず欲して之をして尊貴に在らしむるの所ならん

（ｂ）
①　必ず教え子を高い地位につかせてやりたいと思う。
②　必ず教え子を高官のもとに派遣したいと思う。
③　必ず教え子を皇帝の役に立つ人物にしたいと思う。
④　教え子をなんとかして出世させたいと思った結果である。
⑤　教え子に正しい教育を施してやりたいと思う理由である。

④　倒置がおこる場合

(1)　否定文中の目的語か補語が代名詞の場合

(例)　未之聞。〔未だ之を聞かず。〕（まだこれを聞いていない。）

不汝与。〔汝に与へず。〕（お前に与えない。）

(2)　「詠嘆」の「A哉、N也。」の句法

(例)　美哉、花也。〔美しきかな、花や。〕

(3)　目的語が疑問詞の場合

(例)　何ヲカ書ク。〔何をか書く。〕（何を書くのか。）

(4)　「以」を用いる場合

(例)　以ツテレ銭ヲ与フ。〔銭を以つて与ふ。〕（お金を与える。）

(5)　「之」を用いる場合

(例)　此レヲ之レ謂フ。〔此れを之れ謂ふ。〕（これを言う。）

★補足

一 「複数の句法に使用される漢字」

① 於・于・乎（文中）

(1) **置き字**

(2) 「　　」V二於N一　　＊N＝Vの動作主　（　　　　）

(3) 「　　」A二於N一　（　　　　）

② 敢

(1) **敢**（あヘテ）＝（すすんで・わざわざ・おもいきって）

(2) **安**（いづくンゾ）**敢**（あヘテ）**〜**ン(ヤ)＝（　　　　）

(3) **不敢〜**＝［　　］／（　　　　）

(4) **敢不〜乎。**＝［　　］／（　　　　）

③ 若・如

（1）**文頭**にあって**下から返らない**とき「　　」／（　　）

（2）**下から返る**とき「**比況の助動詞**」ごとシ／（〜のようだ・〜と同じだ）

（3）**不レ如**・**弗レ若**　〜ニ＝（〜　　）／（　　）

莫レ如・**無レ若**　〜ニ＝（〜　　）／（　　）

（4）「**疑問**」

〈文頭〉如何・若何〜＝（　　）／（　　）

〈文末〉如何・若何。＝（　　）／（〜は　　）【　　】

〈文末〉何如・何若。＝（　　）／（〜は　　）【　　】

（5）「**反語**」

如何・若何

〈文頭〉（　　）／（　　）

〈文末〉（　　）／（　　）

④ **能**

(1) **能**＝〔　　　　〕／（　　　　）

＊ **善**（よク）＝～することが上手だ

銭（せん）明（めい）経（けい）善レ詩。〔銭明経詩を善くす。〕（銭明経は詩を作ることが上手だ。）

(2) **不レ能**＝〔　　　　〕／（　　　　）

(3) **安**（いづクンゾ）**能**～ン（ヤ）・**豈**（あニ）**能**～ン（ヤ）／（　　　　）

⑤ **而**

(1) 文中で読まないとき＝置き字

(2) 文頭＝読む（置き字ではない）

(3) すなはチ（そこで）

(4) なんぢ〈＝汝・女・爾・若〉／（あなた・あなたたち）

二 「基本的な漢字の読み・（意味）」

【人物・人格・位・立場など】

1 我・吾《われ》・己《おのれ》・余・予・某《ぼう》・某《それがし》（私・私たち）

2 臣《しん》（君主に対して「私」）

3 妾《しょう》（女性の「私」）

4 朕《ちん》（天子の自称）

5 寡人《かじん》・孤《こ》（諸侯〈＝天子から領地を分与された君主〉・王の自称）

6 不肖《ふしょう》（〈立派な親に似ず愚かな人の意味〉→①私　②愚か者）

7 汝《なんぢ》・女《なんぢ》・若《なんぢ》・爾《なんぢ》・而《なんぢ》・子《し》・卿《けい》・吾子《ごし》（あなた・あなたたち）

8 君《くん》（①あなた・あなたたち　②お殿様　③君主）

9 足下《そっか》（〈手紙文で〉あなた）

10 上《しょう》（天子）

11 相《しょう》（宰相）

12 左右《さゆう》（近臣）

13 公卿《こうけい》（高位高官）

14 大夫《たいふ》（中級の官）

15 吏《り》（下級役人）

16 庶人《しょにん》（庶民）

17 百姓《ひゃくせい》（民衆）

18 故人《こじん》（旧友）

19 知己《ちき》・知音《ちいん》（理解者・親友）

20 君子《くんし》（立派な人）↔小人《しょうじん》（つまらない人・身分の低い人）

21 賢《けん》（すぐれている人）↔不肖

22 字《あざな》（別名）

【その他】

1　城＝じょう（町）
2　為人＝ひとトなり（人柄）
3　者＝しゃ・もの・は・昔者（むかし）・今者（いま）
4　人間＝じんかん（世の中・俗世間）
5　理＝り（道理）
6　所以＝ゆゑん（原因・理由・手段・方法）
7　謂曰＝いヒテいはク
8　道＝いフ（言う）
9　対曰＝こたヘテいはク　＊対＝こたフ（目上の人にお答えする）
10　白＝まうス（申す・告げる）
11　中＝あたル
12　**竟**＝おはル
13　困＝くるシム
14　**卒**＝しゅつス（亡くなる）
15　烹＝にラル
16　愛＝をしム（惜しむ）
17　事＝つかフ（お仕えする）・ことトス（実践する）
18　作＝なス・つくル
19　就＝つク（おもむく・とりかかる）・なル（できあがる）・なス（しあげる）
20　之＝の・これ・ゆク
21　已＝すでニ・やム・のみ
22　過＝～ニよギル（～を訪問する）・すグ・あやまツ（間違える）・あやまチ
23　悪＝にくム・そしル・いづクンゾ・いづクニカ
24　且＝
- まさニ～ントす（今にも～しようとする）
- かツ（さらに・そのうえ・そもそも）
- しばらク（まあ）

25　為＝
- ～ノためニ
- ～トなル
- ～ヲなス（～を行う）
- ～トなス（～とする）
- ～ヲつくル
- ～ヲをさム（～を治める）
- たリ（断定）
- る・らる（受身）

26　与＝
- と↓「読み」の問題として一番頻出。下から返る。
- あたフ
- くみス（味方する・賛成する）
- あづかル（関係する）
- ともニス
- ともニ（一緒に）
- よリハ
- か・かな↑～与。（＝文末）

＊下から返らないときは「ためニ」。（他の読みは下から返る。「ためニ」も下から返る時もある）

27　寡＝すくなシ

28　衆＝おほシ

29　少＝わかシ（若い・年少）

30　蓋＝けだシ（たぶん・思うに）

31　凡＝およソ（そもそも）

32　夫＝そレ（そもそも）

33　抑々＝そもそも

34　数々＝しばしば（たびたび）

35　偶々＝たまたま

36　適々＝たまたま

37　終・**卒**・遂・**竟**＝つひニ

38　固＝もとヨリ（もともと・言うまでもなく）

39　素＝もとヨリ（平素から）

40　動＝ややモスレバ（とかく↑そうする傾向が強いこと）

41　毎＝～ごとニ・つねニ

42　方＝まさニ（ちょうど・これから・そこで）

43　所謂＝いはゆる（世間一般に言われる）

44　私・陰・窃＝ひそかニ

45 俄・**卒**・暴・遽＝にはかニ（急に）
46 早＝つとニ
47 嘗＝かつテ
48 忽＝たちまチ（急に）
49 徒＝たダ〜ノミ・いたづらニ
50 因＝ちなみニ・よりテ（そこで）
51 如是・如此＝かクノごとシ（このようだ）
52 是以＝ここヲもつテ（だから・こういうわけで）
53 以是＝これヲもつテ（これで）
54 於是＝ここニおいテ（そこで）
55 未幾＝いまダいくばくナラず（まもなく）
56 須臾＝しゅゆニシテ（まもなく）
57 無幾何＝いくばくモなク（まもなく）
58 無幾＝いくばくモなシ（ほんの少し）

【身分がわかる動詞】

1 対＝こたフ（**目下から目上の人に**お答えする）
2 諫む＝いさム（**目下から目上の人に**注意する）
3 崩ず＝ほうズ（**天子が**亡くなる）
4 薨ず＝こうズ（**諸侯が**亡くなる）
5 弑す＝しいス（**子・臣が親・君を**殺す）

【時間】

1　光陰＝こういん（時間）
2　期年＝きねん（丸一年）
3　四時＝しいじ・しじ（春夏秋冬）
4　一旦＝いったん（ある朝）
5　一夕＝いっせき（ある夜・ひと晩）
6　夙夜＝しゅくや（早朝から晩まで）
7　他日＝たじつ（以前のある日・将来のある日）
8　百代＝はくたい（長い時間）
9　千載＝せんざい（千年・長い年月）
10　暮年＝ぼねん（晩年）
11　天年＝てんねん（寿命・天寿）

復習問題　第六講　抑揚形／願望形／その他

①「天スラ尚ホ如レシ此かくノ、況ンヤ於レテヲ君ニ乎や」にはどのような句形が用いられているか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　受身　　イ　疑問　　ウ　反語

エ　抑揚　　オ　限定

②「矧」は「いはんや」と読む。（１）同じ読み方をする文字を、（２）「矧」を用いた表現法には、どのような表現意図があるといえるか、それぞれ最も適当なものを次の中から選べ。

（１）ア　謂　　イ　況　　ウ　豈　　エ　安

（２）ア　まず最初に困難な状況を述べ、次に「いはんや」に続けてそれ以上に困難な状況を述べることで、後者の状況の困難さがきわめて深刻であることを示す意図がある

イ　まず最初に既知の事実を述べ、次に「いはんや」に続けて未知の事実を述べることで、前者の既知であったはずの事実さえも未知であるかのように見せる意図がある

ウ　まず最初にある状況への判断を述べ、次に「いはんや」に続けて一層進んだ状況への判断を述べることで、後者の判断が自明のものであることを強調する意図がある

エ　まず最初に当たり前の事実を述べ、次に「いはんや」に続けてあり得ない事実を述べることで、前者の当たり前の事実が当然とまでは言い切れないことを示す意図がある

③「きみからの手紙」という語として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　拙所　　イ　行書　　ウ　頓首書　　エ　足下書

④「その結果」という意味の語として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　蓋　　イ　遂　　ウ　便　　エ　率

⑤「素」の送り仮名を含めた読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　まさに　　イ　また　　ウ　もとより　　エ　つねに

⑥「未レ幾」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　突然に　　イ　思いがけず　　ウ　おもむろに　　エ　たえず　　オ　まもなく

【第六講】

二　（～聞かせて下さい。）
（～察して下さい。）

三　③〔渡らんと欲す。〕

〔模範解答〕

問一　いわ〔は〕んやそれようにてきするものをや

問二　⑤

問三　まして母を捨てて公の軍隊の為に仕えることができようか、いや、なおさらできない

問四　どうか私に三言だけ言わせてください

問五　すなわちひんいにしかず

問六　（a）②　（b）①

★補足

一 **「複数の句法に使用される漢字」**

① 於・于・乎（文中）

(1) **置き字**

(2) 「**受身**」V二於N一　＊N＝Vの動作主　（NにVされる）

(3) 「**比較**」A二於N一　（Nより（も）A）

② 敢

(1) **敢**（あへテ）＝（すすんで・わざわざ・おもいきって）

(2) **安**（いづクンゾ）**敢**（あへテ）〜ン（ヤ）＝（どうしてわざわざ〜しようか、いや、決して〜ない）

(3) **不敢〜**＝〔敢へて〜ず〕／（決して〜ない）

(4) **敢不〜乎。**＝〔敢へて〜ざらんや〕／（どうして〜しないことがあろうか、いや、〜する）

③ **若・如**　＊書き下し文「如」＝「若」同様。

(1) **文頭**にあって**下から返らない**とき「　**仮定**　」／（もし～ならば）

(2) **下から返る**とき「**比況**の助動詞」ごとシ／（～のようだ・～と同じだ）

(3) **不レ如**・**弗レ若** ～ニ ＝〔～に如かず〕／（～の方がよい・～に及ばない）

莫レ如・**無レ若** ～ニ ＝〔～に如くは莫〔無〕し〕／（～が一番よい・～にこしたことはない）

(4) 「**疑問**」

〈文頭〉如何・若何～＝〔如何ぞ～〕／（どうして～か）

〈文末〉如何・若何。＝〔如何（せん）〕／（～はどうするか）【　方法　】

〈文末〉何如・何若。＝〔何如〕／（～はどのようであるか）【　状態・結果　】

(5) 「**反語**」

如何・若何

〈文頭〉〔如何ぞ～ん〕／（どうして～だろうか、いや、～ない）

〈文末〉〔～（は）如何せん〕／（～はどうしようもない）

④ **能**

(1) **能**＝〔能ク(よ)〕／（～できる）

＊ **善**(よク)＝～することが上手だ

銭(せん)明(めい)経(けい)善レ詩。〔銭明経詩を善くす。〕（銭明経は詩を作ることが上手だ。）

(2) **不レ能**＝〔能はず〕／（～できない）

(3) **安**(いづクンゾ)**能**～ン(ヤ)・**豈**(あニ)**能**～ン(ヤ)　／（どうして～できるだろうか、いや、～できない）

復習問題解答　第六講　抑揚形／願望形／その他

〈解説〉

① 「スラ尚ホ～、況ンヤ～ヲヤ」は「抑揚」の句形。よって、正解はエ。

② (1) 「いはんや」と読めるのはイ。

(2) 「抑揚」は古文の「類推」と同じ。軽いものをあげて、重いものを推測させ、そうなるのが当然だというのを暗に示す表現意図がある。アは「困難な状況」にだけ限定しているので不可。正解はウ。

③ 手紙文中で「あなた」を表す言葉は「足下」。よって、正解はエ。

④ 「遂」は「つひニ」と読み、「その結果、結局」という意味。よって、正解はイ。

⑤ 「素」は「もとヨリ」と読み、「平素から・以前から」の意味。よって、正解はウ。

⑥ 「未幾」は「未ダ幾ナラズ」と読み、「まもなく」の意味。よって、正解はオ。

〈解答〉

①　エ　②　(1) イ　(2) ウ　③　エ　④　イ　⑤　ウ　⑥　オ